

各地域分科会における主なご意見

※令和3年9月29日～令和4年9月2日までに開催された各会議等での主な意見を集約

【北海道分科会】

- 札幌市が招致を目指している2030年の冬季オリンピック・パラリンピックについては、来年5～6月に開催されるIOCの総会で決定する見通しであることから、先に開催された東京オリ・パラの取り組みを参考にするとともに北海道の特性である冬期間（雪）も踏まえたバリアフリーの推進が大きく加速されるために、国（北海道運輸局と開発局）と道と札幌市を中心として道内各市町村、各事業主及び道民が協力した取り組みが進められることを期待したい。
- 航空機利用の際の、電動車椅子バッテリー確認の簡略化や統一基準の確立について電動車いすを利用する際に、チェックイン、保安検査などで、バッテリーチェックに時間を要するため、ストレスが多い。円滑なチェックインに向けてどのような取り組みを検討されているかお聞きしたい。

【東北分科会】

- 県の地域交通プランや市の都市交通プランで、デマンド交通というのが一つの柱になっていると思う。車椅子ユーザーとして気になることはデマンド交通で走らせる車両で福祉車両が走っている地域が少ないのではないかとということ。一方で、既存の路線バスは今まで法律のおかげもあってバリアフリーバスがどんどん増えているという状況である。デマンド交通でも福祉車両の運行ということを検討していただきたいと思っている。
- 青森県は全体的に雪が多いので、どうしても「雪が積もったときに建物に段差や階段がないと入れなくなる」といった考え方がある。その辺の精神的な部分で考えを持っている方が多いので、いくらバリアフリー化といったとしても効果が薄いというかマインドに響いていない部分もあり、実現できていないというのが現状である。

【関東分科会】

- 駅のバリアフリートイレの設置状況、非常に高い達成率になっているが、利用者数の多い駅では常に使われている状況で、長時間待たないと使えないというのが現状。利用者数に応じてトイレの個数を増やして頂きたいということと、一般のトイレの中にも広めの個室を設けるなど、分散化を進めて頂きたい。

【関東分科会】

- ホーム全体の段差と隙間の縮小について鉄道会社で改修を進めて頂き、単独で乗り降りできる駅が増えた。快適に乗り降りできるようになった分、車いす利用者の乗車が増え、ホームの一部分しか、かさ上げしていない路線だと、同じ車両に車いす利用者が同時に2、3台乗っているといった混雑する場面がとても増えた。ホーム全体がかさ上げされている都営新宿線であればどの車両からでも乗れるので、もし混んでいたら分散して隣の所から乗ることもできる。また、都営三田線などは、今後新しく乗り入れる車両は、全車両に車いすスペースが設けられるということなので、今後は部分的なかさ上げだけではなく、ホーム全体のかさ上げでどこからでも単独乗降が可能にして頂きたい。
- 障害当事者の参加というところが随分進められてきている。プランの作成段階から参加し、障害当事者が参加される。そういうことがもう一般的になっているが、発達障害、知的障害の関係者の参加というのはなかなか難しいという状況がまだまだあると思う。なかなか意見が言いにくいとか、個人差もあり難しいと思うが、ぜひ、発達障害、知的障害の関係者にとって分かりやすい環境整備ということについて、いっそうご配慮頂きたい。

【北陸信越分科会】

- 無人駅が増加している。夜無人駅は暗く、暗いと私たち（聴覚障害者）はコミュニケーションできない。帰るときも誰もいなく連絡方法もないので私たちだけではなく不安を持っている方もいると思う。無人駅にテレビ電話等を置いてはどうか。または昨年からJRの方で手話講座が始まっていると聞く。運転士の方が手話を覚えてくだされば、聞こえない方への対応があればありがたいと思う。
- 空港のバリアフリーの取組みの一環として、視覚障害者用誘導ブロックを設置された。設置された取組みを如何にして周知していただくかが大事だと思う。変化した部分、このあたりをどう周知するか。例えば、JR西日本においてみどりの券売機プラスが設置された場合には目の不自由な方にご案内をしたり、北陸鉄道のバスの運行の変更について案内いただいた際にも、周知させていただいたりした。障害のある方にいかにその情報を伝えるか、今後はこれが非常に大きなポイントになるかと思う。

【中部分科会】

- ピクトグラムはJISZ8210という参考基準があるが、「文字の大きさ・フォント・色使い」はいまだに各施設でバラツキがあり、施設によっては利用者が案内表示を視認しにくい状態である。鉄道施設と周辺地域・公共施設等と統一された判りやすい表示が望ましいので、連携・調整や基本ルール・仕様等の開示等が必要と思われる。「案内」は、目で見て分かる、聞いて分かる、触って分かる、ということもあるし、よくあるのは人に頼るということ。困っている状況をどうお知らせするか、それを誰がどのように整備していくかが大きな課題。
- 歩道が設置されていない道路、踏切道における視覚障害者誘導用ブロックや表面に凹凸のついて誘導表示等の設置の在り方、についての検討状況に関する情報提供をしてほしい。

【近畿分科会】

- 2016年以降、駅の無人化が増加して、当事者の方が大変困っている。鉄道会社と当事者の意見交換の場を設定して欲しい。
- 各施設単体、各機関単体で見ると、バリアフリーは一定程度進んでいるが、広域移動においての情報提供に関しては、まだまだ課題が多いと思う。土木学会の関西支部でバリアフリー計画学研究委員会と近畿分科会として協力するという形（事業者・行政・自治体等に、現地における当事者参加による調査、評価の会の開催への協力依頼）をお願いしたい。10月から11月頃にかけて、万博をイメージして、万博の会場から世界遺産である高野山に行くとか、あるいは姫路城に向かうときに広域移動が円滑にできるのかどうか調査したい。

【中国分科会】

- JRの無人駅が増えている。緑の発売機になり有人発売所が閉まっている。聴覚障害者はオンラインでは伝わらないので駅員がいる時間を調べて買いに行き、駅の方に代わりに買って頂く。聞こえなくても買える機械を設置してほしい。広島市営（基町）の駐車場にある、手帳をかざせば割引できる機械のような物をJRの無人駅にも設置してほしい。全国的な問題でありお願いしたい。

【中国分科会】

- ヘルプマークの配付・啓発に取り組んで頂いているが、ただ配っているだけではダメで、一般市民の方がたの間にマークが定着しなければ何にもならない。バスや電車で啓発ステッカーを多く見る事は喜ばしいが、一般市民にマークが認識されていない。広島ではバスで譲ってもらえたが、路面電車で譲ってもらった経験がない。ヘルプマークの不正入手・使用の記事が新聞に載っていたが、不正利用の追及よりも、まずは一般市民にマークについて意識を持ってもらう方が大事である。(障害が)外から分からないので、理解してほしい。少なくとも行政に関わる人たちは理解しようとする姿勢を持ってほしい。行政機関の行う研修は内容が伴っておらず、当事者の話をよく聞く機会を持ってもらいたい。

【四国分科会】

- 高知県のバリアフリー観光相談窓口で県内外からの旅行者に対応している中で、最近多い相談が、大人のおむつ交換ができる折り畳み大型ベッド、いわゆるユニバーサルシートについてのものです。これがなかなか、どこに設置されているのか情報がつかめません。公的な機関に聞きに行っても、そういった一覧はないと回答されることが多く、自分たちで探しに行って案内をしている状況です。ユニバーサルシートが設置されていないトイレは多いですけども、他県のニーズはどうなのか、設置しているところを教えてくださいと言われた際に、一覧やここに聞けばわかるという場所があるのかなど、ユニバーサルシートに関する声をお聞かせ下さい。
- 視覚障害者にとっての駅のホームは「欄干のない橋」と例えられることがある。どれだけ危険な場所であって、声掛けがいかに大切なのかを広く周知するため、テレビCMなどによる広報活動を検討していただきたい。数秒でもビジュアル的に取り上げられるとインパクトがあるかと思う。
昨年テレビで放映された弱視の視覚障害女性を主人公にしたドラマは、障害特性を正しく理解する上で一定の効果があったと考えられる。コスト面で難しいようであれば、ラジオCMなどを検討していただきたい。

【九州分科会】

- 現在、日本全体の障害者数は967万人と人口の約7.8%を占めており、また、2025年を境に人口の30%以上が高齢者となる。将来、日本人口の約40%が高齢者・障害者となることから、現在、全国でユニバーサルツーリズムを推奨する動きが始まっている。これから、各家庭に1人は体が不自由な方、不自由を感じる方がいる時代になるということは、これまでの福祉目線のバリアフリーから、高齢者・障害者を受け入れられる体制を整えておかなければ、集客を逃す可能性がある。各事業者が今までと見方を変え、高齢者・障害者が安心してお越しいただけるための観光戦略を考えていく必要がある。
- 宮崎カーフェリーのドライバーズレストランにて「旅客船事業者に求められること」と題して講習会（座学担当）を実施。そのあとフェリーターミナルでの乗船手続きから乗船、船内移動を二班に分け車いす体験を実施。質疑応答では多くの質問や感想を頂いた。皆さん前向きに旅客船へのハンディのある方のスムーズな乗船をサポートしていこうという熱い思いを感じた講習会でした。今年の春には宮崎カーフェリーには新造船も就航し、エレベーターやユニバーサルルームなどが備わり、よりハンディのある方の乗船が増えていると思います。今回の講習会が今後のフェリー運営に寄与することができたなら幸い。今後も定期的にこのような講習会が継続して開催されることを希望します。

【沖縄分科会】

- 情報バリアフリーについて、沖縄総合事務局のHP等は、それらに考慮した良いHPである。民間適用の前に、沖縄県等のHPはアクセシビリティがよくない。デジタル社会化が進んでいく中で、情報バリアフリー対策も本分科会の協議事項になり得るのか問いたい。参加委員の各機関のHPについても、十分に対策されていないという風を感じる。例として、沖縄県知事選。HPのPDF資料は聴覚障害者は読み取りができない。参政権等に関しては、視覚障害者の方々に情報提供できないということになるので、アクセシビリティに対処した取組をしていただきたいと思います。
- 現状で沖縄県で観光施設における心のバリアフリー認定施設はどのくらいあるのか。今後は観光立県として沖縄県内でも認定施設を増やしていくと思うが、沖総局としても注力いただきたい。また、沖縄県としてどう考えているか、OCVBとしても協力いただけるか。